



第六次総合計画の柱は、地域交通の充実

◆のりと塩尻について

問 運行エリア拡大や利用者増により運行に支障をきたした場合の対応や、ミーティングポイントの設置の考え方はどうか。

答 現在の大門、高出、塩尻東の利用状況は1日平均98人で、地域振興バスの1・7倍となっている。広丘、吉田の実証運行の結果によっては増便等の対応が必要だ。ミーティングポイントは、商業施設や医療施設等の施設型、観光型、人口密度型のタイプで分け、設置基準に基づき区長会へ説明し、塩尻市地域公共交通会議で決定している。
(都市計画課)

要望

ミーティングポイントの設置個所については地域住民の意見が反映されるよう尽力願いたい。



ミーティングポイント

◆市全体の公共交通

問 のりと運行エリア外の交通手段が地域振興バスでは不十分だが市長の考えはどうか。

答 市街地に都市機能を維持・集約し、市街地と農山村地域を交通などで結び、都市全体の活性化を目指す、コンパクト・シティー・プラス・ネットワークの都市構造が大変重要で、地域交通の課題を解決していくことは重要なキーワードだ。高

◆不登校対策について

全国的に不登校児童生徒が増え、文部科学省からはCOOLOプランが示された。本市の対応はどうか。また、保護者の役割が重要だが、実施状況はどうか。

(市長)

答 このプランは、不登校児童生徒全ての学びの場を確保し、学びたい時に学べる環境の整備、心の小さなSOSを見逃さない支援、学校の風土の見える化を通じ学校をみんなが安心して学べる場所にする取り組みで、具

要望

個別最適化のためのアウトリーチは専門性が求められ、行政職員のみ対応は困難である。全国を活動範囲としているアウトリーチを行っているNPOもあるので、中間教室がアンテナを高くし、家庭と専門家をつなぐハブ機能を持つていただきたい。

(教育総務課)



問 不登校になつてしまった子どもに対しては、専門家によるアウトリーチが必要だがどう考えるか。

答 高ボッチ教室で不登校児童生徒を支援している学校教育指導員をコーディネーターとして派遣している。本市が独自に配置している子と親の心